

## 質疑応答

### ●西部地区再整備事業基本方針（案）の内容について

- ・まちぐらしの姿で「自分たち」という言葉が出てきたが、誰のことを指すのか。  
→現在西部地区に住んでいる方、これから住みたいと思っている方、まちに関わりたいと思っている方など全ての人を指している。今まで住んでいる方々の暮らしを大切にしながら、これから住みたいと思う人のことも一緒に考えていければと思う。
- ・将来像を示すイラストは、イベントが多くテーマパークのような表現に見える。イベント的なものを主体とすることが魅力づくりではないのではないか。  
→イベントで賑わいを作ることだけが魅力づくりではなく、まち全体を暮らしの場として捉えている。

### ●今後の進め方について

- ・行政の投資規模、スケジュールが不明確ではないか。
- ・どのようなスパンで考えられているのかがわからない。  
→2030年をひとつの目途にしているが、そこで終わりではなく、その後も続いていくと思っており、「まちの動きを途切れさせない」という言葉でも表現している。地域の方と具体的な取り組みを進めながらまちをつくっていききたい。

## トークセッション

参加された皆様からは、以下のようなご意見が出されました。

### ●多様な主体による議論の場の必要性

- ・これからの新しいまちづくりでは、専門家やコンサル、住民、みんなでどう新しいアイデアを実現していくかが大切になってくる。トップダウンでなく、ボトムアップの考え方が大切だろう。
- ・議論を重ねて少しずつボトムアップしてプロジェクトが立ち上がっていけばと思う。
- ・今後私たちがどう関わってまちをつくっていけるか、こういう場で話し合いながら進めていくというイメージを持っている。
- ・みんなが見える場所で議論することで、世代間などで断絶していた課題や問題が結びついて新しいビジネスが生まれたり、税金が投入されなくても地域内循環が生まれたりするのではないか。
- ・課題解決に向けた意見が、市民だけでなく、インターネットを活用して市外の人などからも活発に出てくるようにできると、良いまちづくりにつながっていくのではないかと。
- ・各自が協力できることを出し合うことで新たなプロジェクトが生まれるのではないかと。世代間のギャップなどもあるかもしれないが、それぞれの活動をつなげることで、大きな力になるのではないかと。
- ・企業とまちづくりの関わり方を考えて、地域の課題に対して企業の知見を活かすことができればと思う。

- ・ 日本中のどのまちもお金がなく人もいなくて疲弊しているが、今のような色々な議論ができて、住んでいる人の知恵や資源を活かしていければ、このまちは良いモデルになれるのではないかと思う。

### ●持続性のある仕組みづくり

- ・ (仮称)まちぐらしセンターの運営主体は行政ではなく、民間会社的な運営の方がよいのではないか。利益がないと継続できない。
- ・ 観光を支えていくためにも、観光客が地域に還元するような仕組みがほしい。
- ・ 函館は住みたいまちナンバーワン。1泊いくらで泊まってもらおうという方法で地域にお金を還元する仕組みも取り入れてみるのではないかな。アーティストインレジデンスで若いアーティストを呼び込むこともよいと思う。
- ・ まちづくりは、楽しそう、美味しそう、気持ち良さそう、ということがないと定着しない。

### ●まちの魅力と、情報発信

- ・ 人は行政だけでつくられたまちに住みたいとは思わない。そこに住んでいる人たちの想いや楽しさ、暮らしやすさなどが集まってまちの魅力となり、活性化され、住みたいまちになっていくのではないかな。
- ・ 西部地区は世界でもなかなかない素晴らしいところだが、見えていないところがたくさんある。そこをいかに発信していくかであると思う。

### ●若い世代の取り組み

- ・ 西部地区を良くしようと取り組んでいる若手の活動は、地元の方から見てどう思われているのだろうか。
- ・ 否定する気は全くなく、素晴らしい取り組みと思う。ただ、観光客向けの遊ぶところが多く住むところではないのが残念。
- ・ 一軒一軒を丹念に見て、外観を街並みになじませながら空家を住みよくりノベーションしていくことは、資金がなければできないが必要なことである。民間だからこそできることであり、まちづくりのひとつの方法だと思う。

### ●町会の活性化

- ・ 高齢化が進んで町会役員の担い手が少なくなってきたおり、いずれは町会の合併も考えなければならぬ。町会館も古くなっているため、多くの人が入れる場所があってもよいと思う。
- ・ まちの協力が一番大切だと思うので、自分たちの足元から行政と協働の取り組みを一步一步実現できればと思う。
- ・ 児童館や保育園のような施設と協力して、若い人との関わりを持つことは良いことだと思う。例えば若いお母さんも巻き込んで、町会の活性化を図れないだろうか。
- ・ 町会の課題も、西部地区に店を出したい人と共創で考える、学生に住んでもらうなど、お金がなくても工夫すれば様々な可能性がある。

### ●暮らしやすさ

- ・住んでみたいと思ったことは何度もあるが、買い物などが不便そうで思いとどまってしまった。
- ・車の所有の有無で感覚が違うかもしれない。車を使えば買い物はそれほど不便ではない。
- ・西部地区は不便というイメージは持たないでほしい。
- ・西部地区に住みたい人に住んでもらえばよい。
- ・銭湯が1か所しかなく困っている高齢者が多いが、都市ガスが引けない、長屋建が多いといったまちの背景をふまえて考える必要がある。
- ・電車通りの街灯が暗い。

### ●コミュニティの場づくり

- ・空家が多いので、若い人にも興味を持ってもらえるような地域のコミュニティ活性化の場をつくってみるとよいのではないか。